

第6章

立地適正化計画の まちづくり方針

立地適正化計画のまちづくり方針

6-1 中心部が抱える課題の整理

本市の中心部は、古くは城下町、羽州街道の宿場町として、鉱山の振興を背景とした賑わいのあるまちなかとして発展し、行政、医療福祉、商業施設等の都市機能施設が立地していますが、人口減少や少子高齢化等の影響を受けて、さまざまな問題が生じています。

立地適正化計画では、「第3章まちづくりの基本方針」で示した都市構造と方向性に基づき、今後のさらなる人口減少・高齢化の進行がもたらすさまざまな課題に対応した都市構造への転換を行うことが重要です。

ここでは、立地適正化計画で解決すべき課題を設定するとともに、これらの課題に対して有効な本市の強みをソフト面とハード面から抽出しました。

立地適正化計画で解決すべき課題

- ① まちなかのエリア価値や活力の低下
 - ・ 路線価の平均が約 10,000 円/m² 下落している
 - ・ 市内の空き家約 1,700 件のうち、約 3 割が中心部に集中している
 - ・ 市民アンケートでは「暮らしやすさ」の満足度が低下している
- ② まちなかで活躍できる場・機会が不足
 - ・ 高校生の約 3 割が就きたい職業が市内にないと回答している
 - ・ 就労を希望する母親への子育て環境支援が求められている
 - ・ 多世代が活躍できる場・機会が不足している



本市の強み

- ① ソフト面
 - ・ 秋田犬への関心がさらに高まっている
 - ・ 高校生の約半数は、大館に住み続けることを希望している
 - ・ 有効求人倍率は1倍以上が続いている
- ② ハード面
 - ・ 歴史的風致維持向上計画によるまちづくりが進められている
 - ・ 再利用可能な空き家等が中心部に多く存在する
 - ・ 日本海沿岸東北自動車道の延伸により県内外とのアクセスが向上している
 - ・ 工業団地への企業進出が進んでいる

図 立地適正化計画で解決すべき課題と本市の強み

6-2 立地適正化計画のまちづくりの方針と誘導方針

「第3章まちづくりの基本方針」では、まちづくりの理念を「未来を担う若者が主人公となるまちなか活用・そこからつながる多世代が快適な暮らしづくり」と定めています。

立地適正化計画により、まちなかを活用した多世代が快適な暮らしづくりを実現するためには、まちなかの課題を解決するだけでなく、定住希望が高い高校生等の「若者」、中心部に多く存在する再利用可能な空き地や空き家等の「遊休不動産」、城下町における「歴史資源」等、本市の強みを活かした拠点づくりを行い、市全体の暮らしやすさへつなげていくことが必要です。

そのため、都市機能及び住宅等の立地の適正化を具体的に進める立地適正化計画では、まちづくりの方針（ターゲット）を「未来を担う若者が主人公となるまちなかの遊休不動産と歴史資源の活用」とし、誘導方針（ストーリー）を、1. まちの賑わいと交流を促進する「拠点づくり」、2. 多世代が活躍できる「場づくり」、3. 安心して住み続けられる「環境づくり」の3つの柱とし、庁内の関連部局や地域と連携して実現を目指します。

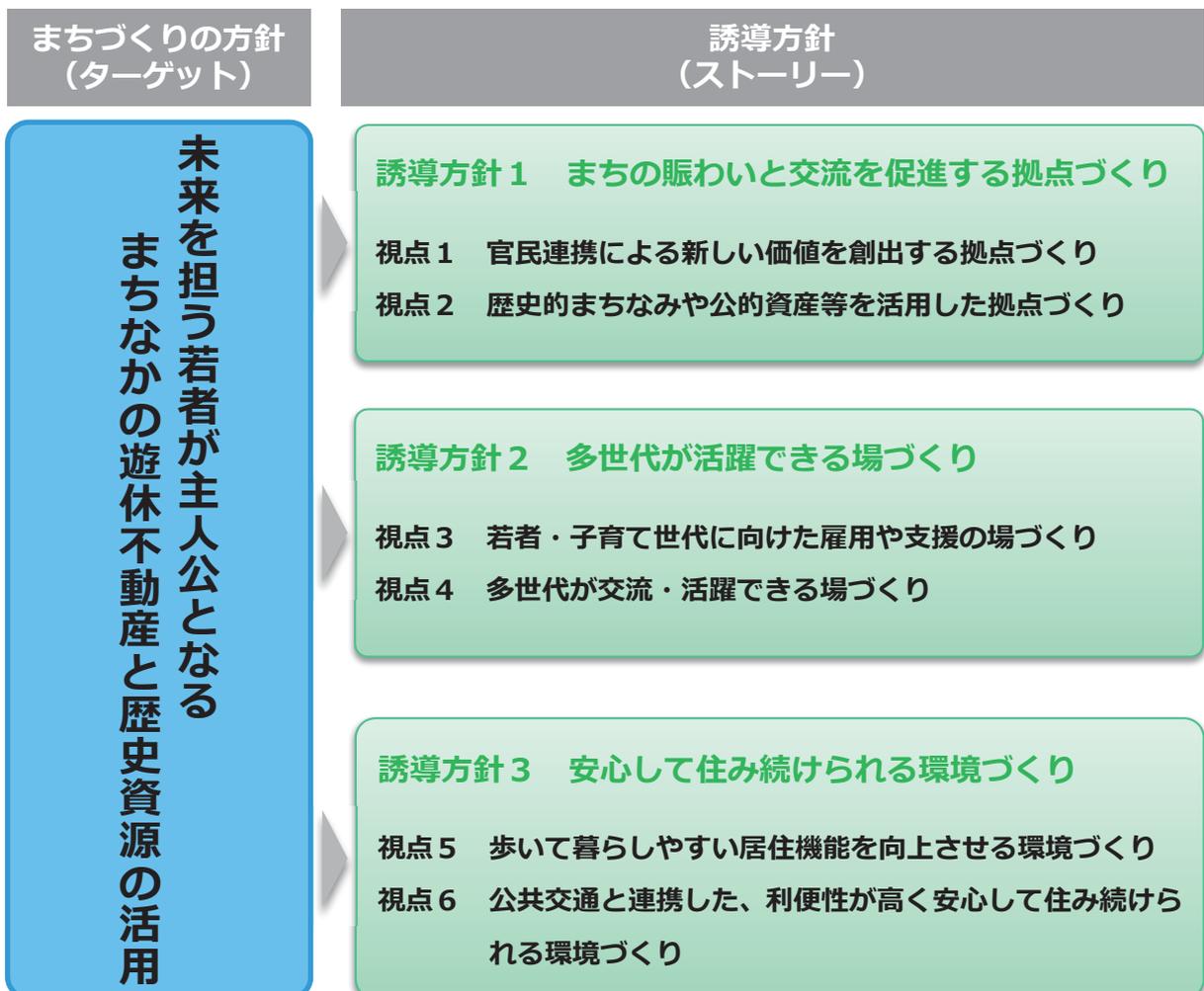


図 まちづくりの方針と誘導方針

6-3 目指すべき都市の骨格構造

(1) 拠点の設定

本市は2005(平成17)年に1市2町が合併し、行政サービス施設としては、市役所のほか、比内総合支所(旧比内町役場)、都市計画区域外(立地適正化計画の対象区域外)にある田代総合支所(旧田代町役場)も重要な機能を担っています。

また、第2次新大館市総合計画において最重点施策に位置づけられているふるさとキャリア教育は小学校単位での活動を行っており、小学校区における地域のまとまりが強いと考えられます。

これらの状況を踏まえ、本市における拠点は、大館地区を中心拠点とし、扇田地区(比内総合支所周辺)及び都市計画区域外の早口地区(田代総合支所周辺)を中核拠点、ふるさとキャリア教育の活動拠点等を地域拠点として、次のとおり設定します。

① 中心拠点

市の中心として、市内外からのアクセス性に優れ、行政中枢機能、高次医療機能、商業機能といった施設が集積し、高次の都市機能を市民に提供することのできる拠点を「中心拠点」と定めます。

大館地区の市街地には、市役所をはじめとする官公庁等の施設、保健福祉施設、医療施設、文化スポーツ施設等、都市サービス機能が集積しています。また、歴史的風致維持向上計画に基づく取り組みを行っているほか、本市を代表する祭りが開催される等、本市の中心地として機能しています。

これらを踏まえ、大館地区を中心拠点として設定し、市内の各地域はもちろんのこと、他市町村や他県等、広域的な交流・連携も強化していきます。

大館地区(大館駅南側周辺～御成町～大町～市役所周辺)

大館地区は、商業や業務機能の充実により、本市の中心的な拠点としての役割を担っています。そのため、大館駅南側周辺～御成町～大町～市役所周辺を中心とした地区に都市基盤の整備、複合的な機能の集積を推進します。また、都市機能誘導区域・居住誘導区域を定め、魅力と賑わいのある都市空間の形成を図るとともに、利便性の高い交通結節点としての機能強化に努めることとします。

② 中核拠点

総合支所をはじめとする行政機関や医療施設、商業施設等の日常的な生活サービス施設が集積し、周辺地域の日常生活に寄与する拠点を「中核拠点」と定めます。

扇田地区及び早口地区は、旧町の中心部であり、本市東西の拠点でもあることから、周辺を含む地域の日常生活を支える既存の各種都市機能を維持するため、中核拠点として、中心拠点や周辺の地域拠点との連携を考慮した拠点の形成を目指します。

扇田地区(比内総合支所周辺)

扇田地区は、旧比内都市計画区域の用途地域を中心に商店街が形成されており、地域の中心商業地となっているとともに、医療、高齢者福祉等の施設の充実により、比内地域だけではなく、市の南東部における拠点として機能しています。

このように、都市機能や資源が充実している特長を活かしながら、既存の施設や機能を有効活用し、拠点機能の維持・活性化を図っていくことが求められます。

このため、中心拠点へのアクセス性を向上させるとともに、周辺の地域拠点とのネットワークを形成することで市の南東部の利便性を確保し、現在の都市機能の維持を図っていくこととします。

早口地区（田代総合支所周辺）

早口地区は、日常生活に必要な商業施設や高齢者福祉施設が立地していることにより、田代地域だけではなく、市の西部における拠点として機能しています。このため、扇田地区と同様に中核拠点として機能の維持を図り、中心拠点へのアクセス性向上や市西部における日常生活の利便性を確保するため、既存の生活利便性の向上に寄与する施設や公共交通を維持するほか、地域主体での交通サービスの導入等、新たな公共交通体系の検討を図っていくこととします。

③ 地域拠点

ふるさとキャリア教育の活動範囲である小学校区を1つのまとまりと捉え、地域の中心として、主として日常生活を支える機能を市民に提供することのできる拠点を「地域拠点」と定めます。地域拠点は、小学校区を地域の単位とし、日常生活を維持していきます。なお、小学校区の時点は2005（平成17）年の1市2町合併時とし、廃校となった小学校を含みます。

地域拠点においては、立地適正化計画における誘導区域は定めず、小学校周辺や公民館等を核とした拠点を形成する等、「第5章地域別構想」で示した土地利用の推進を図ります。地域拠点を中心とした生活機能を維持するための取り組みとして、小さな拠点の形成等、小学校区単位による取り組みを検討します。さらに公共交通の維持や地域主体での交通サービスの導入等、新たな公共交通体系の検討を行い、中心拠点や中核拠点へのアクセス性の維持・向上に努めます。

(2) 目指すべき都市の骨格構造図

本市の地理的条件や公共交通の配置状況、また上位・関連計画における都市づくりの方向性を踏まえ、目指すべき都市の骨格構造を次のとおりとします。

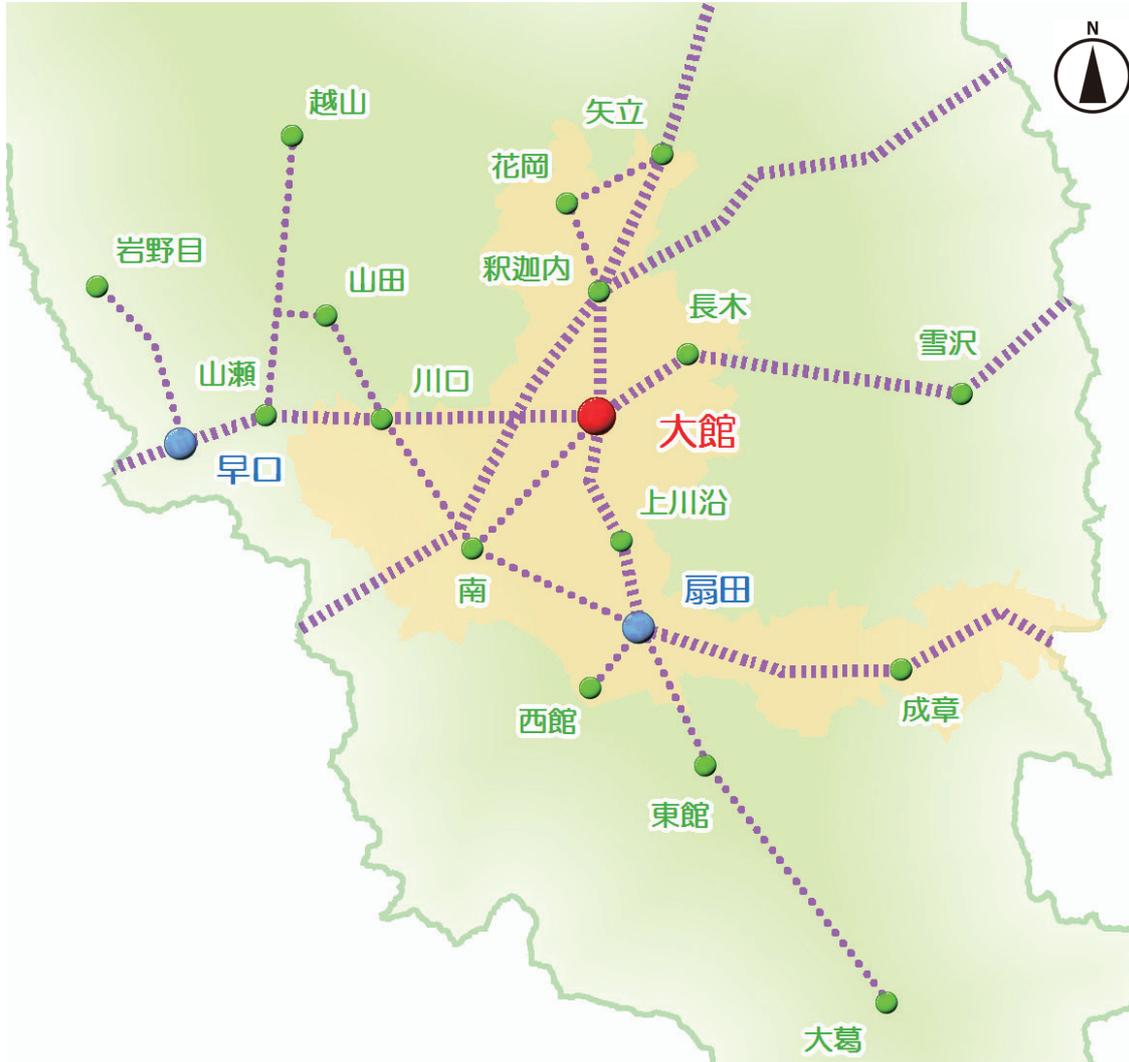


図 目指すべき都市の骨格構造図

凡例			
拠点		中心拠点	本市の核となる拠点 ・高度な利用を図り魅力ある市街地形成を促進 ・交通軸を活用した広域的な交流を促進
		中核拠点	広域的に地域を支える拠点 ・交通軸を活用し、各地域拠点や中心拠点との交流を促進
		地域拠点	地域の核となる拠点 ※ふるさとキャリア教育の活動範囲である小学校区単位（2005（平成17）年時点） ・日常生活に必要な機能の充足 ・公共交通により中心拠点や中核拠点と結ばれた拠点の形成 ・地域交通等による移動手段の確保に向けた取り組み ・豊かな自然や田園環境と調和した住環境を維持
軸		広域連携軸	中核拠点や地域拠点・他市と多極的に結ぶ軸 ・市全体の骨格を支える基幹軸 ・鉄道や幹線バスにより骨格を支える移動手段の確保に向けた取り組み
		地域連携軸	地域拠点同士を結ぶ軸 ・豊かな自然や営農環境と調和した住環境を維持 ・地域交通（支線バス・地域主体の交通等）による移動手段の確保に向けた取り組み